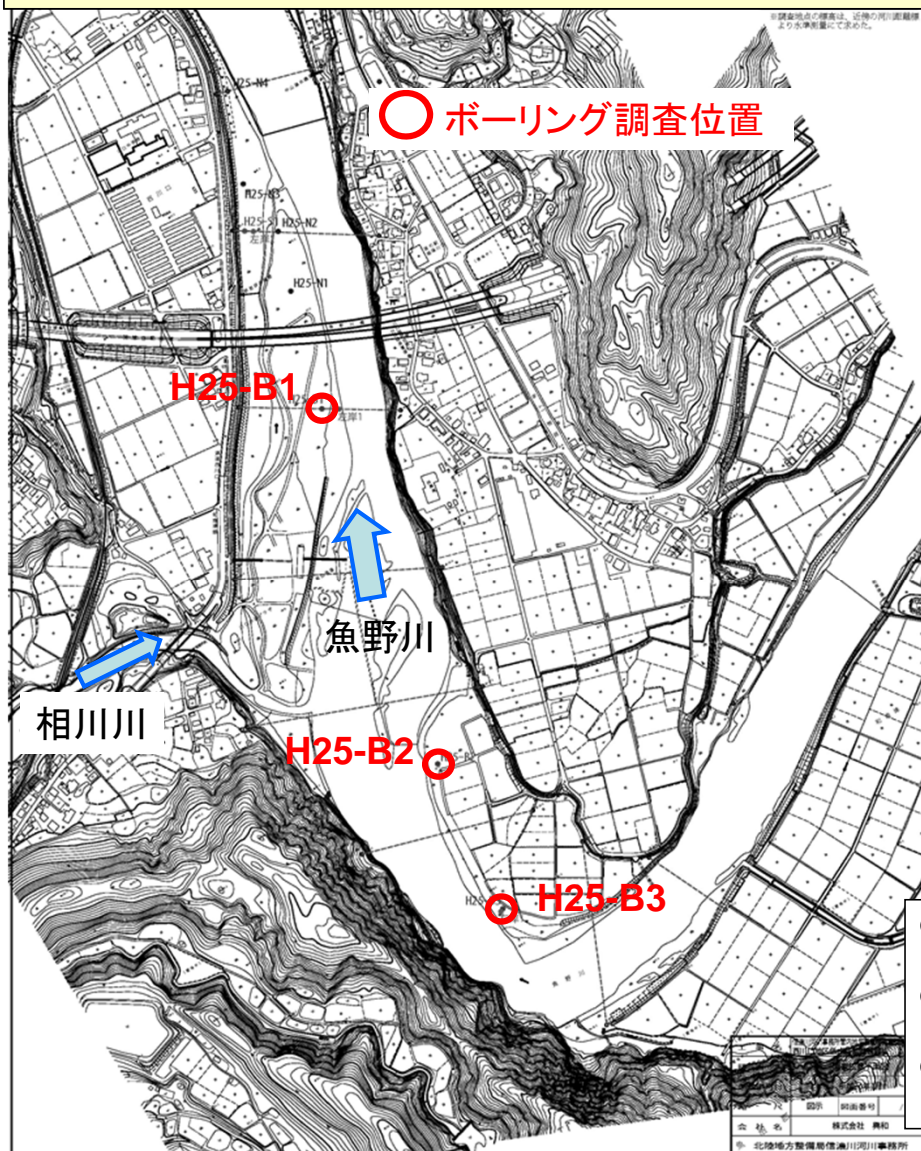


➤ 西川口地区の土砂堆積状況と土砂生産源を確認する。

- 平成25年度に実施した地質調査結果を示す。
- 土砂生産源は、魚野川の広域的現地踏査や河床礫の礫種判別資料が無いいため、今回実施した地質調査結果に基づき概略検討を行った。その結果、下位の砂礫は硬質で時代が古く、破間川より上流の右岸域が供給源と考えられる。一方で上位の砂主体部や砂礫は軟質な岩も含まれ、対象地近傍が供給源の可能性が高い。



○ ボーリング調査位置

H25-B1

標高	層厚	深さ	柱状	土質	色調
尺	高	厚	度	状	区
(m)	(m)	(m)	(m)	図	分
62.00	0.80	0.80	玉石礫	暗褐	①
61.20	0.85	1.65	シルト質細砂	暗褐	②
57.20	4.15	5.85	玉石混じり砂礫	暗灰・暗褐	③
56.06	1.20	7.05	泥岩	暗灰	

H25-B2

標高	層厚	深さ	柱状	土質	色調
尺	高	厚	度	状	区
(m)	(m)	(m)	(m)	図	分
64.72	1.30	1.30	礫混じり中砂	暗褐	①
57.02	7.70	9.00	玉石混じり砂礫	暗灰・褐灰	②

H25-B3

標高	層厚	深さ	柱状	土質	色調
尺	高	厚	度	状	区
(m)	(m)	(m)	(m)	図	分
64.93	2.40	2.40	礫混じり中砂	暗褐	①
62.83	2.10	4.50	砂礫	暗灰	②
58.33	4.50	9.00	玉石混じり砂礫	暗灰・淡褐	③

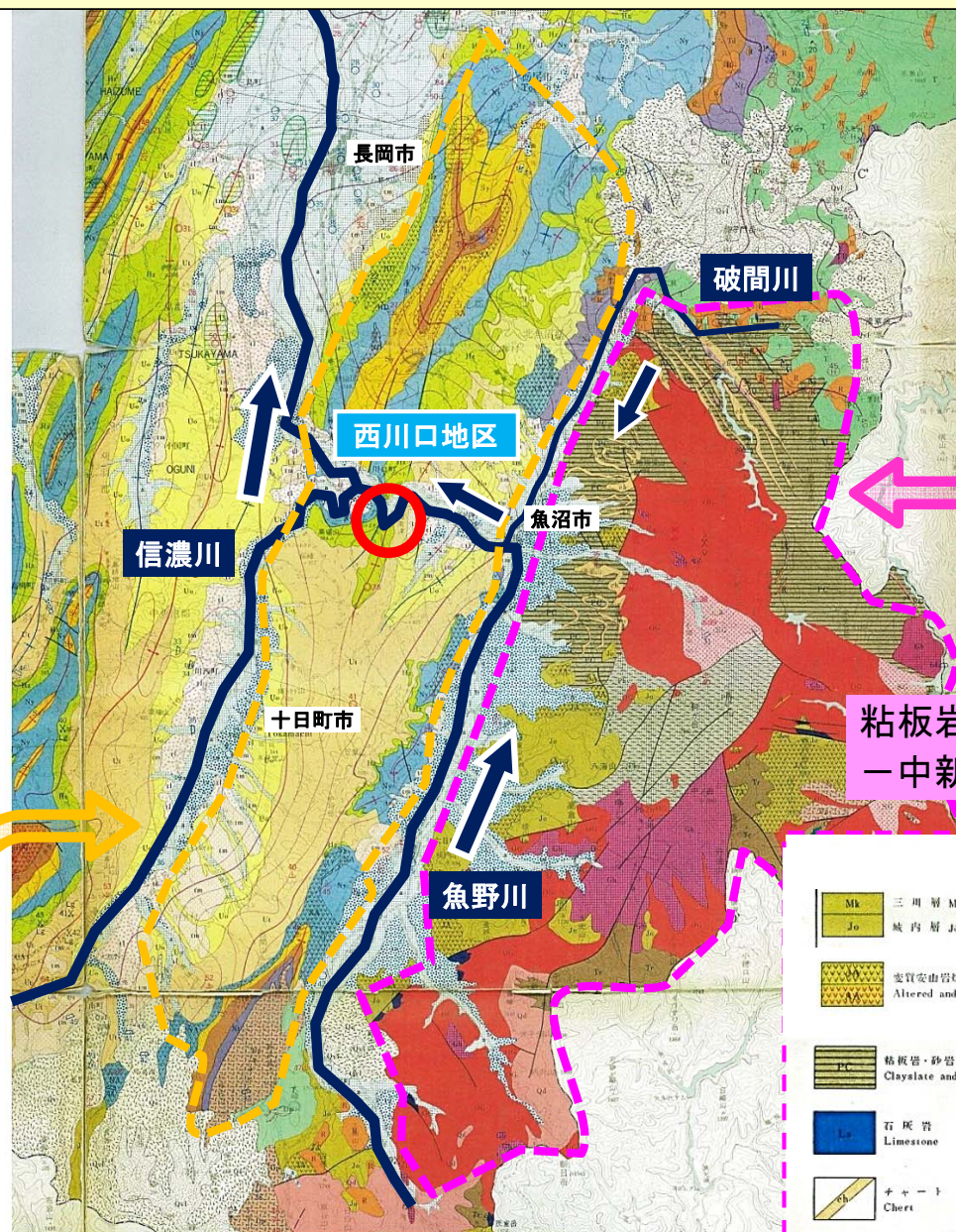
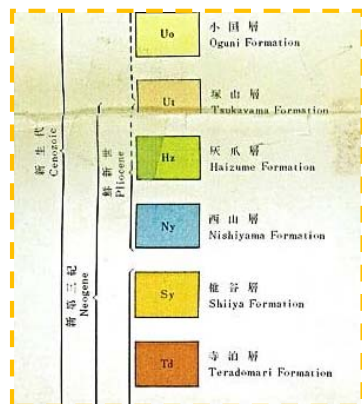
- ①20～40mmの礫主体 (最大100mm程度)
- ②0.25mm以下の細砂主体 5～30mmの礫が点在
- ③20～40mmの礫主体 (最大想定300mm程度)

- ①0.85～2mmの粗砂主体 20～30mmの礫が点在
- ②10～40mmの礫主体 (最大想定270mm程度)

- ①不均質な砂層 (細砂～粗砂が混在) 5～20mmの礫が点在
- ②20～40mmの礫主体
- ③20～40mmの礫主体 (最大想定210mm程度)

➤ 魚野川流域の地質状況を示す。

泥岩・砂岩等の分布域
—新第三紀層—



ボーリング調査の結果、下層で確認された、粘板岩、チャート、花崗岩、玄武岩などの硬質で時代が古い土砂の想定される供給源

粘板岩、チャート、花崗岩等の分布域
—中新世～中生代～古生代—



ボーリング調査の結果、上層で確認された軟質な岩(砂岩・泥岩)の想定される供給源。
※ただし、砂岩や泥岩は遠方からの運搬中に細粒化するため、西川口地区に堆積している砂岩や泥岩は遠方から供給されたものではなく、近傍の流域から供給されたと想定される。

➤ 昭和22年度から昭和54年度までの相川川の河道変遷を航空写真により示す。

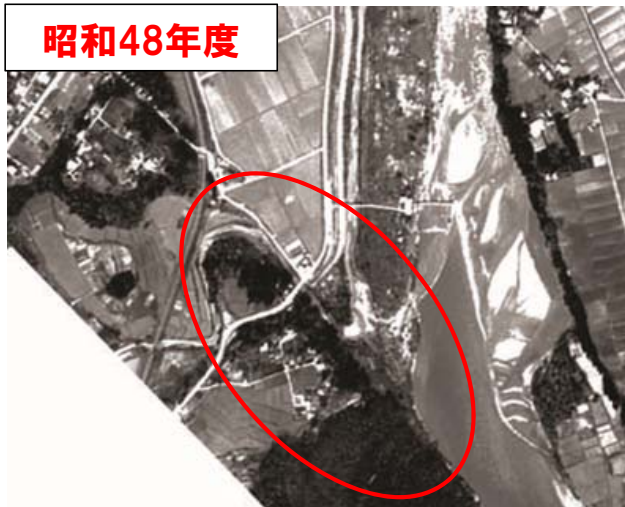
昭和22年度



昭和37年度



昭和48年度



昭和54年度



➤ 昭和61年度から平成23年度までの相川川の河道変遷を航空写真により示す。

昭和61年度



平成4年度



平成18年度



平成23年度



➤ 相川川は平成11年度では堤防沿いにも流れがあったが、平成14年度では流れがないことがわかる。



相川川が2方向に分かれ一方は堤防沿いに流下している。

